

【事業報告】

平成 27 年度・28 年度 事業報告

〔総括〕

平成 27・28 年度の学友会事業は、これまで通り「会員相互の親睦を図る」、「母校の発展を後援する」を念頭に常置委員会を中心に活動を行い、ほぼ計画どおりに達成できた。

1. 母校への後援活動について入学式・卒業式に臨席し祝辞を述べ、その中で学友会の活動を紹介した。

加えて、学園祭と同時に開催されたオープンキャンパスでは学友会による相談コーナーを設けるなど積極的に学園行事に協力した。

さらに、学園が 90 周年を迎えるにあたり募金活動を行っているが、会員情報等の提供で募金活動に協力した。

2. 支部との連携活動について

会員相互の親睦・親交を積極的にはかかっていただくため、定期的な支部総会の開催を要請すると共に、出席要請のあった支部には会長及び本部役員が出席するよう努めた。

3. 学友会名簿 2016 年版の発行

広告収入も厳しい情勢の中、2 年ごとに発行している会員名簿を 2016 年 11 月に発行した。

〔委員会報告〕

(1) 庶務委員会

通常の業務として理事会(年 4 回)および各委員会、打合せ会議等の開催案内および会議運営を行った。学友だより(年 4 刊)の発送、ホームページの定期的な更新および内容の充実を図った。名簿委員会と連携して会員情報の管理、支部の役員名簿、卒業生就職先名簿など各種文書の取扱業務を行った。また、支部総会および同窓会開催時には、会員宛名シールの提供および案内状発送等の支援を積極的に行った。

(2) 編集委員会

「学友だより」を下記の通り年 4 回、計 8 号発行し情報発信した。

学友だよりの内容について、予定していた掲載事項と投稿された原稿、報告を掲載し、加えて随時送られてくる事項について、遅滞なく掲載した。計 8 号の総頁数が 74 頁となり、前年度総頁数 94 より 20 頁減少した。

通巻 215 号	2015 年(H27-No1)	平成 27 年	4 月 10 日発行	8 頁
通巻 216 号	2015 年(H27-No2)	平成 27 年	7 月 10 日発行	16 頁
通巻 217 号	2015 年(H27-No3)	平成 27 年	10 月 10 日発行	12 頁
通巻 218 号	2016 年(H27-No4)	平成 28 年	1 月 10 日発行	8 頁
通巻 219 号	2016 年(H28-No1)	平成 28 年	4 月 10 日発行	8 頁
通巻 220 号	2016 年(H28-No2)	平成 28 年	7 月 10 日発行	8 頁
通巻 221 号	2016 年(H28-No3)	平成 28 年	10 月 10 日発行	8 頁
通巻 222 号	2017 年(H28-No4)	平成 29 年	1 月 10 日発行	8 頁

総頁数 74 頁

通巻 223 号	2017 年(H29-No1)	平成 29 年	4 月 1 日発行	12 頁
----------	-----------------	---------	-----------	------

(3) 企画委員会

① 就職懇談会の開催

平成 27 年 5 月 16 日(土)、平成 28 年 5 月 21 日(土)の両日、午後から大学講義室において、4 年生を対象に就職懇談会を実施した。臨床実習期間を 6-7 月に前倒実施されること、また就職に対する意識を早期から高めるための必要性により、平成 27 年度から 5 月開催となった。

両日ともに、短大卒業生を中心に 4 名の学友会員に講師をお願いした。企業に席を置く卒業生は、医療現場だけではなく留まらない会社組織での業務や昇給、昇進のシステムを紹介して頂いた。また、同じ医療職でありながらも大学病院や市民病院、検診センターなど様々な規模、職域の卒業生にその業務等を紹介してもらった。医療職については大まかな理解が得られたようであったが、企業の先輩に対して質問が多く寄せられた。専門学校や短大などは診療放射線技師の養成を行うための指向が強いが、大学での教育ではそれ以外の知識も習得されていることが伺えた。

卒業生が後輩に残したアンケート調査である『贈る言葉』を基にした Q&A 形式のプレゼンテーションを行った。つい最近まで同じ所で学んでいた先輩からの就職に対する、生の忠告や意見であるため、現実性が高く今後の就職活動の参考となるとの感想であった。

学友会会長など学友会の先輩方もオブザーバーとして多数参加いただき、様々な立場で学生に対して助言をおこなった。

両年ともに懇談会終了後にあずまやで在學生との懇親の場を持った。

大学評価・学位授与機構からも良好な評価を受けていることの情報もあり、就職活動支援に関しては大学と学友会との連携を緊密にし、今後ともサポート体制を強化していく必要がある。

②学園祭における学友会相談コーナー等の開設

平成 27 年 10 月 24 日(土)、平成 28 年 10 月 22 日(土)に開催された学園祭(大瑠璃(おおり)祭)に例年通り「学友会何でも相談コーナー」を開き、在學生の相談に応じると同時に、在學生と卒業生との親睦を図った。

両年とも、在學生の手伝いによる学友会主催の模擬店を相談コーナー内に設けた。串カツなどが食べられることから、従来に比べて和気藹々とした雰囲気が増して感じられ、就職や学業に対する相談が行い易くなったとの意見も頂いた。

大学のオープンキャンパスが両年とも開催され、見学に訪れた入学希望者(高校生、保護者)の相談を受け付け、本学の特徴である『学友会』組織について資料を作成し展示した。

最近の傾向としてオープンキャンパスに訪れる保護者や学生は、診療放射線技師の仕事について既に情報を得ている場合が多く、それらに関する相談は減少傾向にある。

③学友会を法人とすることを検討した。

法人登記をした場合は、銀行口座を開設や不動産等の財産において直接登記名義人になることができる。一方で、年度ごとに決算を行い、変更が生じれば登記などの手続きが必要となる。しかし、当学友会は 2 年おきに総会を開催し、決算もそのときに承認されるため、運営の実情と合致しない。また、定款に従った役員改選において、役員の変更が生じなくても登記を行う必要があり定期的な経費を必要とする。

長年の運用上、現状で不都合が生じているわけではなく、当学友会として法人格を有するメリットよりも経費の削減を優先して行うべきであると判断され、法人化の必要性はないと決定した。

(4)名簿委員会

平成 26 年度 88 名、平成 27 年度 88 名の卒業生を正会員として加えたほか、勤務先・自宅等の移動申請に伴って、随時 変更を加えた(年間 200 件程度)。また、名簿発行にあたり、現況確認ハガキを全正会員に送付し(全 3,500 件に対して 300 件程度の変更あり)、情報の正確性の向上に務めた。

平成 28 年度に 2016 年版 会員名簿を発行した(500 冊)。広告収入が 680,000 円(13 社)、頒布収入が 464,000 円(232 冊)であった。また、発行に掛かる費用が合計 1,345,912 円であった。

(5)表彰委員会

①表彰対象者の選考

選考基準を明確にするために「名誉会員並びに表彰候補推薦内規」にポイント制を提案し理事会において承認を得た。

「表彰規定」および「名誉会員並びに表彰候補推薦内規」に則り、各支部からの推薦者を含めた表彰対象者の選考を行った。

②2017 年学友会総会表彰者等

『学友会功労賞』本部理事および副会長を務めた藤田 透氏(45 回生)、本部理事および編集委員長を務めた宮本要一氏(49 回生)、山陰支部から推薦があった椿洋二郎氏(48 回生)に学友会功労賞を贈呈することを決定し、理事会に推薦した。

『感謝状贈呈者』として、田中庸二氏(44 回生)を理事会に推薦した。

尚、『学友会荣誉賞』、『学友会奨励賞』については、該当者がなかった。

(6)財務委員会

①一般会計

収入について、良好な進捗(全体で 103%)であり、総額 10,640,528 円となった。支出では、学友だより発行費が 1 号あたり 27 万円程度、名簿発行費が 135 万円程度と、ほぼ予算通りの執行となった。また、宅配業者を利用することにより通信費を抑えることができたが、遅配の問題が生じたため、次年度より日本郵便に変更する。その他、概ね良好な進捗(全体で 85%)であり、総額 8,683,152 円であった。次年度の繰越金は 1,957,376 円となった。

②終身会費

会費収入は新生 185 名(2 年間)であり、5,550,000 円であった。また、積立金(国債)による利息は 872,119 円であった。支出では、一般会計への補助金を収入と同額としたため、今期の当初より利息分だけ積立額が増加し、総額 41,176,524 円となった。

③21 世紀創生基金

今期 1 件の寄附があり、総額 50,000 円であった。今期は大きな支出がなく、繰越金は 4,923,168 円となった。

以上

* 通巻 224 号 2017 年 7 月 10 日発行(H29-No.2)より